

知多火力発電所 7, 8号機建設計画 環境影響評価方法書についての 部会報告（案）

はじめに

知多火力発電所 7, 8号機建設計画 環境影響評価方法書（以下「方法書」という。）について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討した上で、適切に環境影響評価を実施し、その結果を踏まえ環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）を作成する必要がある。

1 全般的事項

(1) 事業計画及び工事計画の具体化に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を考慮し、最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。

特に、温室効果ガス排出量削減の観点から、できる限り発電効率の高いシステムの導入や関連施設の省エネルギー化に努めること。

(2) 調査地点及び予測地点について、その設定理由をわかりやすく示すこと。

(3) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合等においては、必要に応じて、環境影響評価の項目及び手法を見直し、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

2 大気質、騒音、振動

工事関係車両の運行計画の策定に当たっては、車両台数の抑制や平準化、低公害型の車両の積極的な使用、海上輸送への振り替えなどにより、沿道の生活環境に配慮すること。

3 動物

対象事業実施区域ではハヤブサの飛翔やとまり等の行動が確認されていることから、工事の実施に伴う生息環境への一時的な影響が懸念される。また、ハヤブサが高頻度で利用している既存の2本の煙突のうち1本を撤去し、より低い煙突を新たに2本設置する計画であることから、工事中及び供用時のとまり場の変化による生息環境への影響が懸念される。

このため、これらの影響について、専門家等の指導・助言を得ながら、適切に予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討すること。

4 その他

(1) 準備書の作成に当たっては、住民等の意見を十分に検討するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。

(2) インターネットの利用により公表する図書について、印刷できるようにすることや、縦覧期間後も引き続き閲覧できるようにすることなど、住民等の理解促進及び利便性の向上に努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和3年5月31日	審 査 会	知事からの諮問 方法書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 部会の設置及び付託
令和3年7月1日	部 会	方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討

愛知県環境影響評価審査会 知多火力発電所部会構成員

大石 弥幸	大同大学名誉教授
長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
富田 寿代	鈴鹿大学国際人間科学部教授
二宮 善彦	中部大学工学部教授
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
檀田 珠実	名古屋芸術大学芸術学部教授
宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授

◎部会長 ○部会長代理

(敬称略、五十音順)